

第124回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成27年10月

- 日時: 2015年10月16日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 24号館 310号室
- ◆ 主催: 防災塾・だるま 司会: 片山晋 記録: 紅林敏行
- ◆ 談義の会参加者: 会員32名(含む講師) 一般2名(含む講師) 計34名 (敬称略)



荻本塾長

『防災塾・だるま』の活動を開始して今年で10年。忌憚のないご意見を頂きたい!



講師 (左から 上原さん、中川さん、渡辺さん、杉原さん)

談義: 10周年記念事業第3弾: 前半「『防災塾・だるま』活動への提言」

講師: 杉原英和氏(神奈川県安全防災局災害対策課長) 中川和之氏(時事通信社論説委員)
渡辺渉氏(神奈川新聞社報道部) 上原美都男(全国警備業協会専務理事)

●杉原さん・・住民の『自助・公助』の動機づけが課題。

(『自らを守る行動』を身に付けるべく日頃からどのように取り組んでいくのが良いのか?)

『自助・共助』の裾野を広げていき、県民全体の防災力を強化していきたい。

『防災塾・だるま』には基礎知識を持ち、個々の地域で防災活動をして人達が集まっている。

裾野を広げるべく、一人一人の個人の力を活かして行ってほしい。

●渡辺さん・・『言葉』の持つ説得力。被災した人の話に勝るものは無い!

被災体験の無い中で、防災を伝えていく事は難しい。『防災塾・だるま』に参加している人達がそれぞれ地域で取り組んでいる防災活動をバックボーンとして外部に伝えていく事で広がっていくのではないかな?

継続する為には、後継者、担い手をどの様にして取り込んでいくかが大事。

神大を拠点としているので、学生を巻き込んでいく事も出来ないかな?



講義風景

●中川さん・・『防災塾・だるま』とは、『地と知と智の枠組み』である。

(地:それぞれの地元、知:大学、智:現場、枠組み:荻本さん)

『想定被災地(未災地)での実践的地域防災学』(学ぶ、現場、フィールド、社会科学)

地域で一人一人が良い事をしている。良い事をしている人達がだるまに集い、それを神大が支える。

そして、それを見ているメディアがある。課題は、『持続性』。この枠組みを神大の看板にしていく。看板にしていくとちょっと色々な人達を巻き込むが出来る。

『防災以外』として成果を蓄積していく。他から得られない事がここには有る。

●上原さん・・継続は力、いままでの活動を大事に続けて行って欲しい。

(談義の会、コトラー養成講座、被災地との交流等の活動)

『防災塾・だるま』の地盤は神大(荻本さんがいることが前提となるが)。

若い人達は関心を持てば参加する。若者を巻き込んでやっている地域活動は多い。



片山さん(司会)

●次回(第125回)案内

- 日時: 2015年11月27日(金) 18時~19時30分
- 会場: 神奈川大学 24号館 310号室
- 話題: 10周年記念事業第3弾: 後半「『防災塾・だるま』活動への提言から意見交換・まとめ」